

岩手連盟第11回スコットランド派遣

33rd Scottish

International patrol Jamborette

実施報告書



2012年7月13日～8月3日

日本ボーイスカウト岩手連盟



エジンバラ領事官にて総領事と一緒に



ジャンボレット会場でハイフ地区のスカウトと共に

2012(平成24)年ボーイスカウト岩手連盟スコットランド派遣日程

日本ボーイスカウト岩手連盟

日程		場所	時間	移動方法	行 動 予 定	宿泊場所
7月12日	木	盛岡	23:10	夜行バス	夜行バスで東京へ	車内
7月13日	金	東京	6:30		東京駅南口到着	
		"	7:15	電 車	成田エクスプレス7号で成田へ	
		成田	8:10		成田空港到着。搭乗準備	
		"	11:30	VS901	バージン・アトランティック航空で成田空港出発	
		ロンドン	15:50		ロンドン、ヒースロー空港到着	スカウトハウス
7月14日	土	ロンドン		地下鉄	ピカデリーサーカス、トラファルガー広場他見学	"
7月15日	日	"		"	市内観光バス乗車。大英博物館他見学	"
7月16日	月	"			自然史博物館、ベーデンパウエルハウス他見学	"
7月17日	火	ブレアソール	8:00	電 車	ロンドン、キングズ・クロス駅出発。スコットランドへ	
		エジンバラ	12:25	"	エジンバラ到着。その後ブレアソールへ移動	
		エジンバラ			日本エジンバラ総領事招待の昼食で、総領事私邸訪問	
		ブレアソール		バ ス	カラム・ファーカー運転のバスで、キャンプ場へ	キャンプ地
7月18日	水	"			第33回スコットランド国際ジャンボレット参加	"
7月19日	木	"			"	"
7月20日	金	"			" (サテライトキャンプ開始)	"
7月21日	土	"			" (カントリーフェア&キャンプファイアー)	"
7月22日	日	"			" (スカウツタウン&バーベキュー)	"
7月23日	月	"			"	"
7月24日	火	"			"	"
7月25日	水	"			" (プログラム最終日&バーンズサパー)	"
7月26日	木	"			最終日。さよならキャンプファイアー・閉会式	"
7月27日	金	ファイフ			ジャンボレット終了。撤収後ホームステイ家庭へ	ホームステイ
7月28日	土	"			ホームステイ/二人一組で、ホームステイ家庭へ	"
7月29日	日	"			ホームステイ家庭での活動/エディンバラ見学等	"
7月30日	月	"			"	"
7月31日	火	"	12:01	電 車	インバキーティング駅出発/ロンドンへ移動	
		ロンドン	16:54		ロンドン、キングズ・クロス駅到着	スカウトハウス
8月1日	水	"		地下鉄	バッキンガム宮殿衛兵交代他見学	"
8月2日	木	"	13:45	VS900	ロンドン、ヒースロー空港出発	機 内
8月3日	金	成田	9:30		成田空港到着	
		"	11:15		成田エクスプレス18号で東京駅へ	
		東京	12:16		東京駅到着	
		"	12:56		新幹線はやて27号で盛岡へ出発	
		盛岡	15:22		盛岡駅到着解散	

ボーイスカウト岩手連盟2012(平成24)年度スコットランド派遣参加者名簿

No	氏名	所属	学校・学年	性別	班
1	中村 勇太	豊島第1団	学習院高2年	男	1班班長
2	遠藤 怜吾	盛岡5団	附属中3年	男	1班次長
3	高橋 京平	"	附属中2年	男	1班
4	中村 千夏	"	附属中2年	女	1班
5	原田 真於	"	附属中2年	女	1班
6	小林 夏子	釜石第2団	北陵中2年	女	1班
7	小国 隼也	山田第2団	釜石高2年	男	2班班長
8	國枝 祐希	豊島第1団	武蔵高1年	男	2班次長
9	藤井 稜	大槌第1団	大槌中2年	男	2班
10	長谷川大樹	盛岡5団	河南中2年	男	2班
11	松橋 瑞季	大槌第1団	大槌中2年	女	2班
12	藤沢 慶子	"	大槌中2年	女	2班
13	鷺坂 史明	盛岡第5団	ハンチャー副長	男	
14	内宮 眞	県連副理事長		男	
15	内宮 京子	県連事務局次長		女	





今回の海外派遣で

都島第1団
学習院高校2年 中村 勇太

僕は、今回の海外派遣で感じたことが二つあります。その二つは、すべて僕にいろいろな事を考えさせてくれました。

一つ目は、自分の英語能力についてです。最初、僕は英語がとても苦手なので話すのにも苦勞すると思っていました。案の定、一人での出国審査はまったく話を通じず、半ばよくわからないまま出ることとなりました。そこでとても悔しく思い、次からはもっとしっかり相手の話を聞こうと思いました。その決意をしてからは、ロンドン観光では割と話を通じるようになってきて、最終的に一人で買い物ができるまでになりました。そこまで来て、英会話は中学生レベルの英語が完璧に扱えればそこまで問題は無いのではないのではないか、ブレアソールのキャンプもあまり大変ではないのではないかと自分に自信ができました。しかし英語はそんな簡単ではありませんでした。

ブレアソールに着いてからもスコットランドのスカウトと会話を少しだけではありますができました。あまり問題もなく過ごしていたのですが、そこで一つ気付きました。向こうのスカウトと疑問形からの会話以外をそれまでしたことがなかったのです。何気ない日常会話をしたことがなかったのです。このままでいいのかと少し不安になってきました。そして、現地のスカウト同士で会話しているところに居合わせてその不安は強まりました。その不安を持ったまま「PLに連絡がある。」とかいうのでPLのみがサブキャンプのリーダーの所に集まりました。そこで心が折れそうになりました。というのもリーダーから連絡を言われるのですが、その連絡が英語でとても早口だったのです。初めての「PL連絡」は三割程度しか聞き取れませんでした。なのでそこから常時辞書を持ち歩くことを決めました。そして辞書を持ち歩いて積極的に話しかけに行くようにしました。一人でアクティビティーに参加をしたりもしました。そして僕は、「エクスプローラー・トレック」に一人で参加をした時に、遂にそれなりの日常会話を話しながら同じ班のスコットランドのスカウト以外に友達ことができました。たくさんできました。しかし、帰ってきてから自分の班の班員と日本語で話せた時は嬉しかったです。(笑)そこからはとても楽しいキャンプ生活へとなっていました。知り合いとすれ違いざまに「ハイ、ユウタ。」と手を振ってもらい名前を呼んでくれるようになってきました。それだけで、自分の名前を覚えてもらうだけで、その人と気軽に話せるようになってきました。そして、時には右眉毛の半分を切るというバカなことをしたりして友達をどんどんふやしていき、サブキャンプの中に知り合いが、友達がたくさん増えました。最後にはメールアドレスやスカイプ名を教えてもらったりもしました。帰ったらさっそくコンタクトをとってみたいです。

二つ目は、この現地の人達の優しさです。

僕は、この現地の人達はとても優しいと思います。(まあ、時にはそうでない感じの人もいましたが(笑))観光中、キャンプ中、ホームステイ中と上手に英語が喋れない僕達の言葉に耳を

したが(笑)観光中、キャンプ中、ホームステイ中と上手に英語が喋れない僕達の言葉に耳を傾けてくれて、ゆっくりと丁寧に僕達に話しかけてくれました。分からないことを教えてくれました。日本人も聞けば教えてくれますが、日本語が上手く喋れない人にゆっくりと分かりやすく喋ることはできないと思います。そういう時、日本人は固まってしまうと思います。なので言語の面、生活面においてとても優しい人達だと思いました。

最後になりますが、僕は17歳です。スカウトとして見たら結構上の年代になります。今回の派遣は自分が楽しんでいただけですが、周りを見ると自分の班の班員達は時々日本人のみで固まっているのを見ました。それはもったいないと思います。次回、又このような事があった時はみんなを引っ張って、自分だけではなくみんなで楽しんで海外のスカウトと交流していきたいです。

今回の派遣は海外のスカウトと一緒に言葉で苦労したり、歳が離れていて班を引っ張っていくのに苦労したりと、苦労することもあったのですが確実に自分を成長させてくれたと思います。この経験を生かして来年の日本ジャンボリーに参加したいです。又、こんな未熟な僕を海外に行かせてくれた周りの人々に感謝をしたいです。

ありがとうございました。とても楽しく、いい経験をさせてもらいました。



ロンドンの地下鉄



MILL HILL EAST STATION



ピカデリーサーカス エロスの像 前

スコットランド派遣に参加して

盛岡第5団

岩手大学教育学部附属中学校2年 遠藤 怜吾

このボーイスカウトの派遣を通して大きく2つのことが分かりました。

まず1つ目は正確な英語を使って会話をしなくても、相手に伝えようとする気持ちがあれば、下手な英語でも相手に伝えることができるということです。キャンプをしている時に、外国の人に自分が話しかけられて返答する時に、間違わないようにと頑張って返答していましたが、ある時、返答の仕方が全く分からない時があり、その時は焦りながらも相手に伝えようとジェスチャーや文にならない単語を使うと、相手の外国の人でも理解してくれました。その後何度かそのようなことがあり、多くは伝えようとする気持ちがあれば、何とか相手に伝わると分かりました。

2つ目は、外国、特にヨーロッパやアメリカの人たちはとても積極的に自分から話しかけに来て、いろいろな人とコミュニケーションを取るということです。これがロンドンでもキャンプをしている時でも分かったことで、日本人やホンコンの人はなかなか自分から話しかけるまでに時間がかかるけれど、ヨーロッパの人などは自分からコミュニケーションを取りに来ることが、すごく驚きました。そのお陰で外国の人の友だちがたくさんできたとし、キャンプファイアの時など、とても楽しかったです。ホームステイでは、外国の家にはじめて泊まってみて、自分の家とは全く違っていたので楽しかったけれど、少し居づらかったです。ホームステイした家族の人は、多くは英語がうまくないけれど、やさしく多くのことを支えてくれました。

この経験を通して、伝えようとする気持ちというのは、外国だけではなく日本でも使うことができるので、日本に帰ってからも日常生活で使っていきたいです。そして、自分から積極的にコミュニケーションを取ることも、日本で出来ると思うので、それもこれから改めて心がけていきたいと思っています。

この派遣は普通体験できないことだと思います。だからこのことを忘れずに生活していきたいです。

たちが協力して、わざわざ僕を応援してもらって、本当にみんなに感謝したいです。



フィッシュ&チップスの昼食

お腹がいっぱいと食べなかった人も・・・なぜかな?



BPハウスの前でBPの像と一緒に

イギリス人と日本人の気持ちの伝え方

盛岡第5団

岩手大学教育学部附属中学校2年 高橋 京平

僕がこの派遣で考えたことと言うことで、言葉を通じた日本人とイギリス人の違いを自分自身のキャンプ地などでの反省にからめながら書いてみたいと思います。

まずは、「ありがとう」と「ごめんなさい」について。日本人はあまり「ありがとう」と言わず「ごめんなさい」といいます。僕も“Sorry”がイギリスに来て一番使った言葉です。言語の違いになどかかわらず口をついて出てくるのは「ごめんなさい」でした。

それに対してイギリスの人は“Thank you”とたくさん言います。何か手伝うなどしてもらったときに「ありがとう」というか「ごめんなさい」というかどちらでも通じるのですが、自分の思いをよりハッキリと伝えているのは「ありがとう」だと思います。そんな風に自分の感謝の思いをさりげなく、でもハッキリと伝えられるところはイギリスの人々を見習っていきたいです。

それは、「どういたしまして」に関しても言えると思います。「ありがとう」に対する返しの言葉で、日本ではみんなが意味を知っている有名な言葉なのに関わらず使う人はほとんどいません。僕自身も、“Thank you”といわれてなんと答えればいいのか分からずそのまま“Thank you”と返してしまうことがたくさんありました。“You’re welcome”という言葉で自然に感謝の言葉を交換することのできるイギリス人をうらやましく思います。

日本人とイギリス人の違いについていろいろとエラソーなことを書いてきましたが、僕はお互いの言葉についてじっくりと考える以前に英語がダメダメでした。これからもっと英語を練習していきたいと思うし、ブレアアソールで積極的に自分の気持ちを伝えようとしてくれたファイフのスカウト達の姿勢を見習っていきたいです。

その第一歩として今回の派遣でお世話になった人一人一人に「ありがとう」と伝えるところから始めたいと思います。



宿泊したスカウトハウス



門からハウスに続く道



地域のボーイがキャンプに来ました。

一緒にサッカーをしました。

海外派遣を終えて

盛岡第5団

岩手大学教育学部附属中学校2年 中村 千夏

私がイギリスに行って最初に感じたことは思っていた以上に自分の英語が通じなくて大変だったということです。少し位話せるだろうと思っていたのですが、聞きとることも、話すこともすごく難しかったです。しかし、英語が話せなくても、いつもより積極的に身ぶり手ぶりで会話をしていたら、たくさんではないけれど、友達ができました。記念品の交換などもたくさんすることができました。

キャンプに入ってからなかなかファイブの人たちの手伝いをすることができなかつたり、時間を守れなくて迷惑をかけたりして、自分たちから行動を起こすことができませんでした。

アクティビティも班全員でまとまっていてバラバラに動くということが少なかったように思います。私も含めてですが、せっかく外人と交流ができるのだから、仲良くなった人や知っている人だけでなく、一人でも積極的に行ければよかったと思いました。

全体的に感じたのは、時間を意識して行動できていないということと、人まかせにしている人が多いということです。ロンドン観光で何時集合と言われたときに一回も間に合ったことがないし、キャンプ中もみんなが働いているときに風呂に行ったり、どこかに行っていたりする人がいて時間を意識できていないと思いました。このことは以前から挙がっている課題点なのですが、今回も、完璧に改善することができませんでした。

また、人まかせにしているという点では外人と話す時に、班長や、他の人に話してもらったり、自分のことを自分でしなかつたりしていました。

私はまだ班員としての参加でしたが、いずれはみんなをまとめなければならない立場になります。いつまでも頼ってばかりではなく、責任をもって行動できるようになりたいと思いました。

今まで大きな大会に参加したことがなかったのですが、今回スコットランドのジャンボレットに参加して、楽しさや大変さ、喜びをたくさん感じることができました。今回の課題や、分かったことなどをふまえて、これからの大会や活動に生かしていきたいと思います。



ロンドンの2階建て観光バスに乗って



ロンドンブリッジ

スコットランド派遣を通して

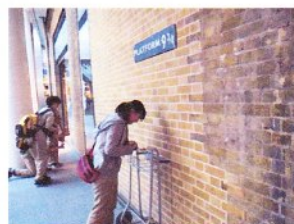
盛岡第5団

岩手大学教育学部附属中学校2年 原田 真於

今回のスコットランド派遣は、私にとってすごく貴重な体験をすることが出来ました。

その中で一番印象に残っているのが、「国際パトロールジャンボレット」に参加したことです。

まだ、ボーイスカウトを初めてから二年しか経っていないため、日本ジャンボレットや世界ジャンボレットへの参加をした事がなく、経験が全くなかった私にとって、世界が広がったように思うくらいたくさんの経験をすることができました。



ハリーポッターになれたかな

特に、外国人との交流では、片言すぎる英語でもしっかりと聞いてくれたり、分かりやすいようにゆっくりと話してくれたり、外国人のやさしさにすごく助けられました。また、一級をつけていても、スコットランドの人とは比べものにならないくらいスキルができていない事を改めて実感しました。

今回見つけた課題は、山よりも高いほど多いと思います。その課題を、一つ一つ確実にクリアできるように、日本での活動を今よりも、もっと積極的にやっていきたいと思っています。

最後に…。

一緒に派遣に行ったスカウトのみんなにはホントに迷惑ばかりかけてしまってすみません。バカやったり、我を通そうとしたりとにかく一番みんなに迷惑をかけていたと思います。特に、ゆうたさん。気づいていない所を注意して下さったり、もっと学びが深くなりました。本当に感謝しています。

鷺坂さん、内宮さん、京子さん。まったく何もできない私にとっても貴重な体験をさせて下さりありがとうございました。すごく楽しく派遣に参加することができました。これから、もっと活動に参加していきます。

家族、盛岡五団のリーダーの方々。みんなよりもまったくできていない私を送り出して下さりありがとうございます。特に、お母さん、お父さん。反対を押し切って行ってしまってごめんなさい。勉強してません。ごめんなさい。いつも、二人が私に言ってくれていた言葉が、どれだけ深く、私のために言ってくれていた事を今回すごく実感しました。これからも、ボーイスカウトの活動や、学校のことでもかなり迷惑をかけると思います。でも、あと少しだけ私のわがままに付き合ってください。お願いします



キングスクロス駅

本当に、ありがとうございました。

P・S日本がすごくいい国だったことを実感できました。



スコットランド派遣について

釜石第2団

北陵中学校2年 小林 夏子

今回の派遣でみつかった課題はたくさんありましたが、その中の三つが大きな課題になりました。

スコットランドに向う電車の中で

一つめは『英語』です。

これはイギリスに来る前から不安に思っていたことでした。でも思っていた以上に話したり聞いたり、読んだりの理解ができませんでした。それで同じ班の日本の人達にも、スコットランドの人達にも迷惑をかけてしまいました。学校で今までに習ったこと以外も、日常会話の勉強ぐらいておけばよかったと思ひ後悔しています。英語は派遣じゃなくても、これから社会で生きていく上でも必ず必要になってくると思うのでしっかり勉強して少しでも話せるようになりたいです。

二つめは『伝えようとする心』です。

初めのほうは英語が全然わからない上にダメだったらあきらめてしまいました。でも最後のほうは、『伝えたい』という気持ちが強くなり、自分の知っている単語とかジェスチャーとかであきらめずにがんばるようにしました。そしたら少しは伝わるようになりました。伝わったときはすごくうれしかったです。ちゃんと『伝えようとする心』があれば、伝わるということがわかったのだから日本でも海外でもちゃんと『伝えようとする心』をしっかり持って会話などをするようにしたいと思います。

三つめは『技術力』です。

私は部活とか住んでいる場所の関係で、あまり活動に参加できていませんでした。こっこのキャンプではほんとにみんなにお世話になりました。それだったらこっこのほうがいいのか、これはこうしなきゃいけないとか、指摘してもらいました。活動に参加できなくても、自分でできることはもっとあったと思うので、これからはスコットランドのためじゃなくてもふだんから自分でできること(スカウトハンドブックを読んだり、家事を手伝ったり)をしっかりやっていきたいです。

今回の派遣ではたくさんのかたを学び、たくさんのかたの課題を見つけ、たくさんのかたの喜びとつらさを味わい、たくさんのかたの優しさにふれることができました。こんなにたくさんのかたのことを体験できたのは、やっぱりリーダーのみなさんや、家族、学校のかた、イギリスのみなさんなどたくさんのかたのおかげだと思います。京子さんも言っていたけど、やっぱり感謝の心を持つことは一番大切だと思います。だからふだんからもっとたくさんのかたに支えられているということをいつでも心のすみに必ず入れておくようにしたいです。今回学んだたくさんのかたのことはボーイスカウト以外にも生かせることがたくさんあったのでボーイスカウトでもふだんの生活でも将来のことにも生かしていけるようにがんばりたいです。

エジンバラ駅に到着



エジンバラ駅に到着 外派遣を終えての感想

山田第2団
釜石高等学校2年 小國 隼也

今回の海外派遣は東日本大震災という大きな震災の後だったにもかかわらず、両親、親戚、山田町など本当に多くの人達の協力があって来られた貴重なものでした。

今回の派遣では、日本にいるよりも自分の英語力のなさに自分で残念でした。キャンプ地のBlair Athollに行く前の三日間のロンドン観光では、リーダーに指定された時間に間に合って着くことができよかったです。観光のほうは大英博物館やロンドンアイなど自分の行きたかった所を回れてよかったです。行った中でも、やっぱり大英博物館のロゼッタストーンとパルテノン神殿の彫刻群、あと「ジンジャー」というミイラ、自然史博物館では恐竜の化石やマントルがどうなっているのかなどが楽しく知ることができました。班長として、時間を意識しながら行動はできたけれど班員



カーラムファーカーさんのトラックに荷物を積む

がどこに行っているのかがあまり把握できていなかったのが反省点だったと思います。

Blair Athollに着いてからはジミー、リース、ローガン、スティーブン、アンドリュー、ポビーの六人のスコットランドのスカウトとキャンプすることになりました。

着いた次の日がアクティビティだったけど、午前中のショッピング以外は六人全員がそろわることがなかったけど、みんなその日その日のアクティビティを楽しんでいたようだったのでよかったです。自分が行く前からずっと行こうと思っていたExplorer Trekに行くことができたし、ホバークラフトを一人で運転できたし、短かったけどキャンプファイヤーをすることができて各国のいろいろな歌が聞けたし、一緒にいい意味でバカになれる事ができたのでよかったです。最後のキャンプファイヤーではみんな楽しむことができた。

キャンプ中の班は僕と女子は朝早くおきて手伝ったりしたことはあったけど、他の班員の男子三人が遅かったのが、班のスコットランドのスカウトに迷惑をかけてしまっていたと思った。

だけど、撤収に関してはスコットランドのスカウトと協力してすばやくやることができたし、サブキャンプのやつも自分からいくことができてよかった。

交流については、自分たちからはサッカーとか野球みたいなスポーツ交流が主だったけど、僕の持っていたハチマキとか二〇一三年のワッペンとチーフリング、二〇一五年のワッペンとチーフリングとかがすぐになくなったので、やっぱりハチマキは人気があるんだと感じました。

Blair Athollでのキャンプが終わってからのホームステイはジミーの家に行きました。ジミーの家族はすぐに僕のことをあたたかく迎えてくれてとてもすごしかったです。

ホームステイの二日目の観光の時に行った公園の遊具は日本では考えられないくらい楽しくて、とくに小さかったけどトランポリンが楽しかったです。

Marryの僕達のいたチームと、となりでキャンプしていたチームのみんなでエジンバラを観光したときに入ったエジンバラダンジョンがロンドンで入ったダンジョンよりも全然つまらなくて残念でした。その日は最後に映画館に行って「バットマン」を見ました。英語だったけど普通に楽しむことができました。水族館にも行き、小規模だったけれど外国の物が体感できて良かったです。

昨日のロンドン観光ではバッキンガム宮殿の衛兵交代を見る事ができて感激でした。

昨日の最後のロンドン観光では集合時間に間に合えなかったけれど楽しく過ごす事が出来たので良かったです。

この派遣では、出発の前にリーダーが言っていた通り、あっちのスカウトはやることはやって、ふざける時はとことんやるのが実感できた。アクティビティは僕が思うに自然と触れ合うものが多かった気がします。僕がアクティビティ最後の日午前に選んだものも自然保護に関するもので、こっちは人は本当に自然を大切にしていると思いました。



スコットランド領事の私邸に招かれて、昼食をご馳走になりました





領事私邸玄関前で
スコットランド派遣に参加して

豊島第1団
武蔵高校1年 國枝 祐希

今回のスコットランドジャンボレット派遣の最大の特長は、当然ながら外国で行われているということだと思う。

周りは自分達以外全員外国人という環境で、彼らとコミュニケーションをとるのは大変な作業だったが、結局そこまでは不自由せずにキャンプやホームステイを過ごすことができた。そのとき感じたのは、英語力と同様に重要なのは、伝えようもしくは理解しようという気持ちだということである。ぼくのつたない英語でも、ジェスチャーをまぜたり、重要な単語を強調したりすれば外国人も大体はわかってくれるし、逆に英語を聞くときはゆっくりと話すなどの工夫があれば概要をつかむ程度のことではできた。例えば僕が英語がべらべらだったとしてもわかり合おうという気持ちがなければ、日本人同士でもときどき起こるように伝えたいことが伝わらないかもしれない。

このことから言えるのは、外国人と接するときは自分から積極的に、伝えよう理解しようという気持ちで自信をもってコミュニケーションするべきだということだ思う。そうすれば最低限のことは伝わるし、友達になるのも簡単に行くだろう。

また、外国で活動していると、コミュニケーションの問題の他に、自分達が日本人であるということが大切な意味をもってくると思う。



キャンプに入り受付をする

特に、このスコットランドジャンボレットにおいては日本人は僕達のみで、僕達の印象がそのまま日本の印象になる可能性が高いだろう。さらには、これは外国ということと直接関係はないが、僕達はボーイスカウトとしてここに来て活動している。特に制服を着て町にいれば、多くの人には僕達がボーイスカウトだということがわかる。

つまりは、自分の立場をきちんと認識し、自分の行動が他人からどう見られているのか、それが何に影響を与えるのかを考えた上で行動することが大切なのではないかということである。

また、これは僕自身が考えたことではないが、周りをよく見るという話がミーティングで多く出た。そのときはおそらく、周囲の状況をきちんと把握して、自分の安全を守り、かつ他の人に迷惑をかけないようにするという意味だったと思う。

しかし今イギリスに来て、周りが新鮮なものだらけの状態、何も考えずにボーッとしているのではなくいろいろなものを興味を持って観察することが大切である。そして周りを見るという

最後にこの派遣を今後のスカウト活動もしくは自分自身の人生にどう役立てるかという話に関しては、今までここに書いたこと全部を改善することだと思う。自分のあまりできていなかったことをメインに書いたつもりなので、これらを忘れないようにしていれば、これからずいぶん成長できると思う。

スコットランド派遣

大槌第1団

大槌中学校2年 藤井 稜



僕はこのスコットランド派遣に来て、

たくさんのことを感じました。この国に来て、最初みんなに

キャンプ場風景

迷惑をかけてしまい、もうこの三週間ずっとこのまま迷惑をかけたくないと思いました。

キャンプ地での生活はめちゃくちゃでした。英語がわからなくて、外国の人が言っていることがわからなくて、すぐ行動できなかつたので、もうちょっと英語がわかるようになりたいです。しかし、英語が通じなくても、みんな笑顔でやさしくて、すぐ話に入れるような人がたくさんいてよかったです。

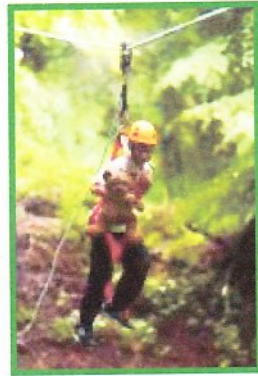
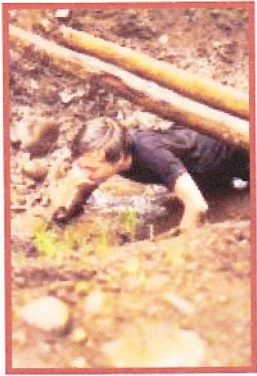
僕のキャンプサイトでは、ピアスをたくさんしている人がいましたが、見た目よりもやさしく、すごく親切でした。みんないい人で、言葉は通じませんが、いろいろな人がいて、盛り上げる人もいれば、遊びに誘ってくれる人もいます。そんな人達がいるとは、日本でも、ロンドンに来た時も思っていませんでした。しかも思っていた以上にみんなが笑って過ごせたので、楽しく生活できて良かったです。その外国の人達の中に、いろいろ話をしてくれて、震災の時のことに興味を示してくれる人も多かったです。

ホームステイ先の家族も優しく、インターネットを使って、震災の時のことを調べて見ていたり、町を案内してくれたりしてくれて、すごく楽しかったです。また、ベッドを貸してくれたりしてくれて、ぐっすり寝れたのでお母さんたちが言っていたことよりもやさしい人達がイギリスにはいることがわかりました。ましてやおみやげまでくれることがすごかったです。

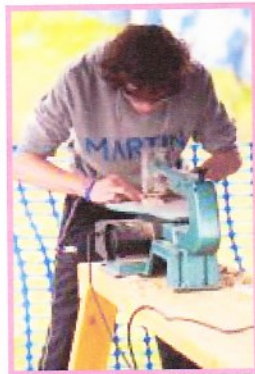
もう一度チャンスがあれば、もう一回スコットランドのファイフの町に行って、交流していろんなことを知りたいです。

日本に帰ったら、周りの行動をよく見て動きたいです。あと、ここにこれたのは、いろいろな人たちが協力して、わざわざ僕を応援してもらって、本当にみんなに感謝したいです。





ジャンボレット プログラムあれこれ





派遣の感想

盛岡第5団
河南中学校2年
長谷川 大樹

今回のスコットランド派遣でまず観光でだいたいみんなまとまって、あまりはぐれることがなくできたのでいいと思います。悪かったことは、たまに自分もふくめて話をしっかり聞いていない人が

いたことです。それと班長と次長ばかりが英語を話して、僕達班員はあまり英語を話す機会が多くなかったのもっとたくさん英語を話したかったです。でも話しかけられたときは自分の言いたいことを伝えることができたのでよかったです。

キャンプ場に行ってから最初は鼻にピアスをしている人や顔のいろんなところにピアスをしている人がいてこわそうだったけれど話してみるとすぐ仲良くなれたし、とてもいい人でした。

アクティビティに行くときはあまり班でまとまらずに、外国のスカウトと交流できてよかったと思います。キャンプ中のディスコではすごく盛り上がってすごい人が集まって踊りました。僕はそこで何回かジャンプしている前の人のひじになぐられました。

キャンプが終わってホームステイでは、最初何をすればいいのかわからなかったけど、ホームステイ先の人のお母さんがとても優しくかったので、すぐに慣れました。ホームステイ先の人にいろんなところへ連れていってもらいました。とても景色のいい場所やビーチにも行きました。同じサイトの人で集まってエジンバラにも行きました。エジンバラダンジョン(お化け屋敷)に行きましたがあまりおもしろくありませんでした。それなのに一六ポンドも払わされたのがっかりしました。

ホームステイが終わって、ロンドン観光では班員がはぐれることがけっこう多かったです。

今回の派遣が終わっても外国のスカウトと交流することはまだまだたくさんあると思います。僕は大きな大会は出来るだけ必ず出たいと思っています。次のスコットランド派遣も出来れば出ようと思っています。それと、またこのメンバーで違うところに行きたいです。





カントリーフェア-日本からは焼き鳥を出しました



よさこい”を踊りました



派遣を通して学んだこと

大槌第1団

大槌中学校2年 松橋 瑞季

わたしがこの派遣に来て、まず最初に思ったことは、英語をもっと勉強すべきだったと思いました。キャンプ地に到着して、同じ班のスコットランドのスカウトがキャンプ地を案内してくれましたが、英語で話していて、ほとんど分かりませんでした。案内が終わってからも、何がなんだか分かんなくなってしまうと、もっと英語を勉強していればよかったと思いました。けれど、むこうのスカウトは、英語が分からない私にも、とても分かりやすく話してくれて、自分が話したいことを伝えようとすると、こうしたいんだと分かってくれて、とてもうれしかったです。

アクティビティでは、いろんな国の人も一緒に活動するので、最初は、どうなるか不安でしたが、むこうの方から話しかけてくれて少し安心しました。けれど、やっぱり自分から話すことができませんでした。ご飯の準備などでも、自分から動けず、ほとんどの仕事をむこうのスカウトにまかせてしまいました。キャンプ中で学んだことは、まず、何事も積極的に動くようにして、思いっきり楽しむということと、みんなで協力するということです。

ホームステイでは、けいこちゃんと、ポピーさんの家に泊まりました。ポピーさんの家族は、すぐに私たちを受け入れてくれて、とても優しくしてくれました。会話では、キャンプの時よりも、自分から積極的に話すことができたし、盛り上がるのができたので良かったです。けれど、

たまにやりたいことが言えなかったりした時があったので、そこは、もっとたくさん勉強してなおせるようにがんばりたいです。ホームステイでは、どの方も本当に優しくしてくれて、うれしかったです。帰る日には、みんなが、がんばってねと応援してくれて、うれしかったです。今回の派遣で私は、たくさんのことを学びました。この学んだことを、これからの生活や、スカウト活動に生かしていきたいし、また、こういう大きな大会があったら積極的に参加したいです。あと、この派遣にこれたのもたくさんの方々の応援や協力があったからなので、それも忘れずに感謝して生活していきたいです。本当に楽しかったです。ありがとうございました。



バッキンガム宮殿衛兵交代

オリンピック聖火

ロンドンアイ

スコットランド派遣で思ったこと。

大槌第1団

大槌中学校2年 藤沢 慶子

わたしは今回のスコットランド派遣でたくさんの事を感じました。

一つ目は周りを見て考えることです。ジャンボレットの朝礼でも思ったけど、海外、特にスコットランドのスカウトは普段は楽しくわいわいしているのに、ちゃんとした時はすごくきちっとじめをつけていました。朝礼以外でも同じようにみんなと協力したり、楽しんだりしていました。

わたしたちはけっこう前のテンションを引きずって、大切なことを聞いていなかったり、時間を守れなかったりしたことがけっこうありました。最後のほうは個人個人意識できていたところもあって良かったです。でも誰かに注意されてからなおすのはしないように気をつけたいです。

二つ目は協力することです。ジャンボレット中のアクティビティや観光でもだったけど、一人だとできないものや、人数が足りないものなどで、班の人と話合っどうにかなりました。やっぱり一人一人が意見を出し合っ協力して答えを出すことが大切なのかなと思いました。そして、リーダーがみんなにちゃんと指示をして自分たちは言われた事は最低限やらないとだめだと思いました。

三つ目は交流のことです。鷺坂さんも言っていたけど、もっと時間を大切に、たくさんスカウトと交流するのが大事だと思います。わたしは英語がペラペラじゃないけど、海外のスカウトと遊んだりすると、なんとなく伝えたいことは分かるようになりました。文法とかじゃなくて、伝

えようとか、何を言っているのかなとか気持ちさえあれば、少しは伝わると思いました。日本に帰ったら、誰にでも積極的にコミュニケーションをとりたいです。

ホームステイ先では、ポピーさんの家の人と仲良くなれたので良かったです。中でもごはんの後や、車からおりたときにちゃんとありがとう、と言えたのでこれからも感謝の心をもって過ごしていきたいです

今回のスコットランド派遣は震災後、たくさんの人からの支援のおかげで参加できています。BBCラジオや、テレビに取材されたり、アメリカのスカウトから寄付金をいただいたりして改めて世界のいろんなところから支えられているんだなと思えました。感謝することもだけど、恩返しやこれからの生活、スカウト活動に生かしていきたいです。

私は次のスコットランド派遣、世界ジャンボリーなどに行けるかわからないけれど、少しでもチャンスがあったら、何にでも積極的になって活動していきたいです。

今回学んだことは、将来、今からでも役立つことばかりだと思うので、普段の生活からスカウトの心を忘れずにいたいです。



オリンピックの案内所



オリンピックの看板



地下鉄の入り口 NOTTING HILL



自転車競技





英国最後の晚餐
ハッティングヒルのイタリアンレストランで



ミルヒルイースト スカウトハウス前で

岩手連盟第11回スコットランド派遣を終えて

日本ボーイスカウト岩手連盟 副理事長 内宮 眞

岩手連盟としての11回目のスコットランド派遣は指導者鷺坂史明君以下12名のスカウトが参加しました。内宮眞・京子は私費旅行で、何かスカウトたちが事件、事故に会った時にサポートをする形で、派遣に同行しました。

ロンドンオリンピック開催とダブる部分があり、イギリスまでの飛行機の確保及び高騰する航空代金に苦慮した大会参加でした。一時は成田から中近東のドバイまで南下し、そこで乗り換えてイギリスを目指すことも考えました。幸いスコットランドのカラム・ファーカー氏の紹介で、ロンドンの航空代理店を通して、ロンドン直行便のバージン・アトランティック航空で座席の確保ができ、オリンピックに湧く地ロンドンにたどり着くことができました。

ロンドンでの宿泊は、いつも利用するイズリントン・スカウトセンターが改修のため、ヒースロー空港から約2時間の、地下鉄ほぼ終点のミルヒル・イーストにあるスカウトキャンプ場を紹介されました。閑静な住宅街近くの芝生のキャンスペースを備えたキャンプ場で、集会場とキャビンがあり、6泊する間キャビンを自由に使うことができました。しかも、そこを管理しているチャールズ・ローエル氏が、新潟県妙高高原で開催された第10回日本ジャンボリーに参加し、いい思い出を持っていたことと被災地から来たということで、宿泊費を無料にしてくれるというおまけつきでした。いつものスカウトセンターより、便が良くなかったものの、一つの経験として快適なロンドン滞在ができました。

いつもと異なることがもう一つ。被災県からスカウトが来るという話を聞いて、エジンバラにある日本総領事館の田良原総領事が総領事私邸に昼食の招待をしてくれました。日英関係の集まりでカラム氏が、ジャンボレット参加で岩手派遣隊が来る話しをしたところ、ぜひ私邸に招待したいということになったそうです。私邸の庭で記念写真を取り、豪華な料理をいただき、最後にビンゴゲームをして過ごしました。田良原総領事はとても気さくな方で、私たちが総領事私邸に到着した時、玄関前で待っていてくれ、「領事館の係の方が待っていてくれるのか？」と勘違いしたほどでした。

今回の派遣については、他の大きな県連と比較しても、長い歴史を持っているスコットランド派遣が、さらなる充実した事業になるよう、準備訓練を含め、訓練・活動内容を評価・反省する必要があると感じています。それと同時に、参加スカウトが、その経験を生かすことができ、スカウト関係者だけでなく、その経験を周りの人たちに話す機会があること、周りのスカウトもスコットランドが新たな目標、夢となり活動に励みができることなど、多くの可能性を含む事業であることは疑いありません。